

# Moodle, YouTube を活用した動画による学生発表と 相互評価に関するオンデマンド型授業実践

澤崎 敏文\*1

\*1 仁愛女子短期大学

## A Practice of On-demand Class on Student Presentations and Peer Evaluation using Moodle and YouTube

SAWAZAKI Toshifumi\*1

\*1 Jin-ai Women's College

When conducting on-demand online classes, the advantage is that students can freely watch class videos at their own pace, but it is difficult for students to actively participate, for example, by sharing group work and presentations with other students. Therefore, we designed a class in which students can share their own presentation videos on Moodle, using YouTube, to create a presentation that corresponds to an on-demand type class. This report is a discussion from the perspectives of the environmental improvement of the class and the students' technological support.

キーワード: オンデマンド型授業, オンライン授業, 相互評価, アクティブラーニング, 動画作成

### 1. はじめに

近年, アクティブラーニングが推奨され, 自由なグループ討論や演習活動のまとめとしてグループや個人によるプレゼンテーションを授業内で実施するケースが多い. 一方で, コロナ禍による授業のオンライン化により, このような討論や発表活動が実施困難な状況になることも少なくない.

オンライン授業は Teams や Zoom といったオンライン会議システムを使用した同期型(リアルタイム型)と, 収録された授業動画や Moodle 等の LMS を活用した非同期型(オンデマンド型)に大別され, また, これら双方を活用したハイブリッド型など, 様々なものが存在する. このうち, 非同期型授業では, 学習者は自身のペースで自由に授業動画を視聴できることがメリットである一方で, 学生側からの能動的な参加, 例えば, グループワークや発表などを他の学生と共有すること等が困難である. 授業がオンラインとなった場合, 一般に, このようなグループ討論や発表は同期型で実施されるケースがほとんどであり, 講義形式の

授業が非同期型の中心となっている. 一方で, これまでの授業での学生に対するヒアリング等から, オンライン授業に関しては, 同期型よりも非同期型の授業の方が学生からの評価が高い. これは, 時間的制約が少なく, ある程度自由な時間と環境, かつ, 自身のペースで学習可能な非同期型のメリットを学生が感じているからだと考える.

そこで, 一般的には同期型が適しているとされるグループ討論やプレゼンテーション, 相互評価等の演習活動を非同期型で対応できるよう, Moodle, YouTube を活用し, 非同期型授業に対応したプレゼンテーションとなるような授業設計と実践をおこなった. 今回は, 当該授業の実践を踏まえ, その実施環境や条件, 学生の技術対応などの考察である.

### 2. 学生発表の非同期化のための環境・条件

非同期型で学生自らが発表動画を作成し, 共有, 相互評価できるようになるためには, 次の3点のスキル

が必要となる。非同期型の場合は、教室内で対面による動画作成等の指導が困難であることから、これら技術を全ての受講生が事前に習熟しているかどうか、実施の要件としては重要であり、本学での対応状況も含めて以下に紹介する。

### 2.1 学生の動画作成スキル

プレゼンテーションを非同期型で実施する場合、一番のハードルとなるのが学生による発表動画の作成である。授業課題とするためには、履修者全員が動画作成できることが前提となる。本学の場合、1年次の「マルチメディア演習」において、動画編集専用アプリの学習を通じて、動画編集、動画作成の技術を習得している。昨年度からは、それらに加えて、PowerPointによる動画作成を追加、かつ、発表動画を作成する機会を複数回確保した。特に、PowerPointで動画作成することのメリットは、動画作成までの準備が、これまで対面で実施してきた発表準備の延長上にあり、普段使っているPCのみで動画作成を完結させることができるため、学生の作業負担が少ない点にある。本学では、この授業でのスキル習得以降、他の授業でも積極的にPowerPointでの動画作成を活用しており、学生が課題の一環として動画を作成することの心理的なハードルはかなり下がった状態になっている。

### 2.2 動画配信プラットフォームの活用スキル

非同期型でプレゼンテーションを実施するためには、動画をYouTubeのような配信プラットフォームを活用して共有するためのスキルも必要となる。本学では、Moodleに加えて、大学公式のGoogle Workspaceを活用しており、その一機能であるYouTube Studioの管理機能についても、PowerPointでの動画作成スキル同様に「マルチメディア演習」で学習する。例えば、動画の一般公開、限定公開、非公開（大学アカウント保持者のみへの公開も含む）の違いについても学生は理解しており、動画作成とともに視聴できる対象を自由にコントロールできる技能をある程度習得している。

### 2.3 LMSの日常的な活用スキル

MoodleなどのLMSを日常的に使用しているかどうか、オンデマンド型授業の成否に大きな影響を持つ。

本学ではコロナ禍以前からLMSとしてMoodleを活用しており、コロナ禍以降は教務関連の連絡等も含めて全学的な活用がスタートしているため、教員・学生共にMoodleを日常的に利用している状況にある。

## 3. 非同期型による授業実践例

今回の実践例となる授業「ビジネス実務演習1」は、1年次の必修授業「ビジネス実務総論」の応用・発展という位置づけであり、ビジネス実務に関する基礎学習を活かして、マーケティング、企画実践、プレゼンテーション等を学ぶ。前半5週間はマーケティングに関する基礎、中盤5週間は企業経営者をゲストに、コミュニケーションに関する演習活動を実施、後半5週間で、福井市ビジネスプランコンテストの応募に向けた企画立案、プレゼンテーションを行う。例年、面接授業であり、グループ討論、プレゼンテーション、学生による相互評価等を対面にて行ってきたが、コロナ禍によるオンライン対応で、オンデマンド型による授業となった。

- 授業名 : ビジネス実務演習1
- 実施期間 : 2022年4月～7月
- 受講学生 : 2年生、99名の学生が受講登録

### 3.1 授業全体の流れ

授業の前半から中盤では、次のような一般的な非同期型の流れで授業を実施している。

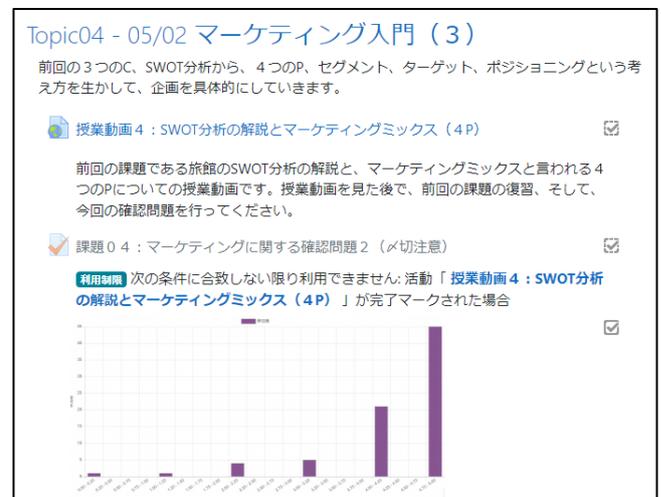


図 1 非同期型授業の Moodle 画面例

YouTube で共有した限定公開の授業動画を視聴し、その内容に応じた演習活動を各自で実施。次回の授業時に演習課題のフィードバック、確認テストを行うという流れである。

今回の考察対象である、学生による非同期型プレゼンテーションと相互評価については、当該授業後半のビジネスプランに関する演習内容となる。学生は10週目から、これまで学習したマーケティングの知識を活用して、ビジネスプランの作成に取りかかる。この週以降、毎回授業時に Moodle ならびに授業動画の中で、14 週目の発表動画による発表と相互評価の実施を連絡し、学生に対して早めの準備を促している。11~12 週目で各自・グループごとにビジネスプランの内容を深め、課題提出ごとに教員から改善点等をフィードバックした。なお、最終的な発表内容を動画として作成するために 12 週目前後で内容が概ね固まっているような流れで指導をおこなった。13 週目には、ビジネスプランコンテストに応募するための応募シートの提出と、具体的な動画作成、YouTube の設定、Moodle で共有設定、相互評価の方法について詳細に説明した授業動画を公開した。

14 週目に学生は、作成した発表動画を Moodle 上のフォーラム（マルチスレッド型掲示板）に投稿し、他の学生の発表動画に対する相互評価をおこなった（図 2 を参照）。

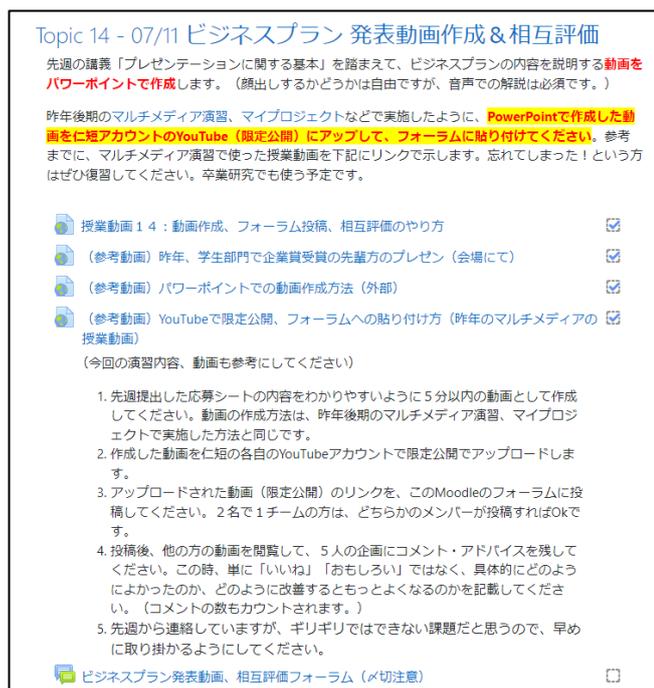


図 2 14 週目の Moodle 発表指示画面

【後半の授業の流れ】

- 10 週目：ビジネスプラン アイデアシート作成
- 11 週目：シート作成，教員フィードバック
- 12 週目：改善したシートを再提出
- 13 週目：応募シートの作成・提出，動画作成指示
- 14 週目：動画投稿，相互評価の実施
- 15 週目：最終レポート提出，振り返り

3.2 発表動画の作成と評価

発表動画は学生自身がそれぞれの環境(学校・家庭)にて作成し、以下の条件で発表の視聴、相互評価を行うこととした。なお、学生からの相互評価とは別に、教員からも発表内容に対する評価、相互評価活動に対する評価を実施することは事前に学生に明示している。

【評価条件】

- (1) 個人、または事前に登録した 2 名のグループで 1 つの発表動画を作成、Moodle 上で公開
- (2) 動画投稿後、その他の学生の発表を視聴して、5 つ以上の発表に対する評価コメントをそれぞれの発表に記載（図 3 を参照）
- (3) Moodle のフォーラムへの掲載期間（評価可能期間）は 2 週間



図 3 Moodle フォーラムで非同期発表，相互評価

全部で 67 件の発表動画の投稿があり，相互評価期間中には合計 365 件の評価コメントが投稿された．1 つの発表動画あたり平均 5.88 件の評価コメントが投稿されているが，期間中，全く評価をしなかった学生もいたため，学生間での偏りが見られる．また，14 件の発表動画は評価コメント数が 0 という状況であり，最多の評価コメント（29 件）を集めた動画と大きく差が開いた．

ディスカッション	ディスカッション開始	最新の投稿	返信数	評価
☆ [モザイク]	2022年 07月 19日	2022年 07月 25日	29	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 19日	2022年 07月 25日	28	👍
☆ 福井県初！左利き用器具販売店 来ていー	2022年 07月 17日	2022年 07月 25日	26	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 19日	2022年 07月 24日	22	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 19日	2022年 07月 25日	19	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 17日	2022年 07月 24日	15	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 19日	2022年 07月 24日	15	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 19日	2022年 07月 24日	15	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 21日	2022年 07月 25日	14	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 19日	2022年 07月 24日	11	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 22日	2022年 07月 24日	10	👍
☆ [モザイク]	2022年 07月 18日	2022年 07月 24日	10	👍

図 4 フォーラム画面（氏名はモザイク処理）

### 3.3 学生の感想（一部抜粋）

オンライン授業であり，学生と対面することなく発表動画作成から相互評価までを実施する必要があり，全ての学生が迷わずに動画作成をはじめとする一連の流れを理解して実行できるか不安ではあったが，予想以上にスムーズに発表・評価活動は進行し，学生からの評価は概ね好評であった．以下に授業後の学生からの感想を一部抜粋して紹介する．なお，学生の記載した文章をそのまま掲載しているため，表記等が一部伝わりにくい箇所がある．

- (1) A「自分で考えたビジネスプランを動画にして他の子たちに見られるのは少し不安でしたが，褒めてもらったり，アドバイスもらったりして嬉しかったです．他の子たちの考えたビジネスプランがとても面白かった」
- (2) B「14 回目でみんなのアイディア発表動画を見て，みんなそれぞれ違って面白かったし，いいアイディアだ」「私にはこんな考え出なかったなと思いました」

した．自分のと比べてもみんなレベルが高くてよく考えられていたので，自分はあまり上手く出来なかったなと反省したし，学ぶことも多かった」

- (3) C「新しい案を出したり企画することの面白さを感じました．また，発表動画にし，相互評価をすることで，たくさんの案や意見がありました．就職して，マーケティングにかかわることがあったら自分の意見だけではなく周りの意見も大切にしたい」
- (4) D「他の学生のビジネスプランを見て，商品自体が素晴らしいものもあれば広める方法や販売場所を工夫している点があり，同じ授業でも考え方が変わるところが面白いと」
- (5) E「他の学生の発想力にもとても良い影響を受けたので，自分も頭を柔らかくして，面白いアイデアを多く出せるような人間になりたいと思いました」

## 4. まとめ - 非同期型の課題と今後

今回の授業実践では，発表動画作成に関する大きなトラブルもなく，学生の感想も概ね好評であり，非同期であることのメリットを学生・教員双方が享受できたのではないかと考えている．

### 4.1 非同期型のメリット

今回実践した授業での非同期のメリットについて，以下の 3 点にまとめてみた．

#### 4.1.1 演習活動に関して時間的制約が少ない

非同期型化する一番のメリットは，学生が授業時間という枠に制限されずに各自のペースで自由に授業参加できる点である．コロナ禍だけでなく，自然災害等によりオンラインとなった場合，同期型での参加が難しい場合もあり，今回のように非同期型で演習活動を行うことで，学生の負担感が少なくなるのではないかと感じた．また，学生の多様化による演習活動進捗の個人差についても，非同期型のメリットが活かされるのではないかと考える．

#### 4.1.2 通信環境への負担が少ない

1 点目の時間的制約とも関連するが，今回の事例では，各学生の通信環境の状況に応じて，発表動画の視

聴，相互評価を行う時間や場所を，大学，自宅，その他というように自由に変更することも可能であり，同期型と比較して，通信環境への負担が軽減されていると考える。

#### 4.1.3 教員の負担軽減

非同期型で学生発表を実施する場合，発表管理・評価という点でも教員の負担軽減となっている。Moodleではフォーラム(掲示板)機能により発表動画の公開，視聴，相互評価をおこなったが，学生のコメントの把握，管理，学生それぞれの評価活動に対しての定量的な評価を実施することが容易であり，対面での発表時には評価が難しかった視聴・評価する側の学生の活動がある程度可視化して，きめ細やかな評価につなげることが可能となると考える。

#### 4.2 非同期型のデメリットの今後の課題

以上のようなメリットがある一方で，非同期型である故の課題も確認された。一般的な非同期型授業でも同様であるが，課題実施に一定の期間が設定されているため，取り掛かりの遅い学生は，締め切り直前に課題を行う場合もあり，適切な評価コメントとなっていない，評価コメントが全くなされていない等の状況が一部で散見された。また，評価コメントの条件を最低5件の発表動画としたため，学生がどの程度の発表動画を実際に視聴していたかは Moodle のログ等からの推測しかできず，視聴態度等など学習状況の実際を的確に把握することは困難であった。非同期型では，積極的な学生とそうでない学生との差異も大きく，それらの解決方法も含めて，今後，学生の演習活動に対する評価指標等に関する検討を行っていきたいと考えている。

### 参 考 文 献

- (1) 澤崎敏文：“非同期型オンライン授業における動画の視聴者維持率と授業設計に関する考察”，日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集, pp.239-240 (2021)
- (2) 澤崎敏文：“PowerPoint でかんたん！動画作成”，技術評論社，東京 (2021)